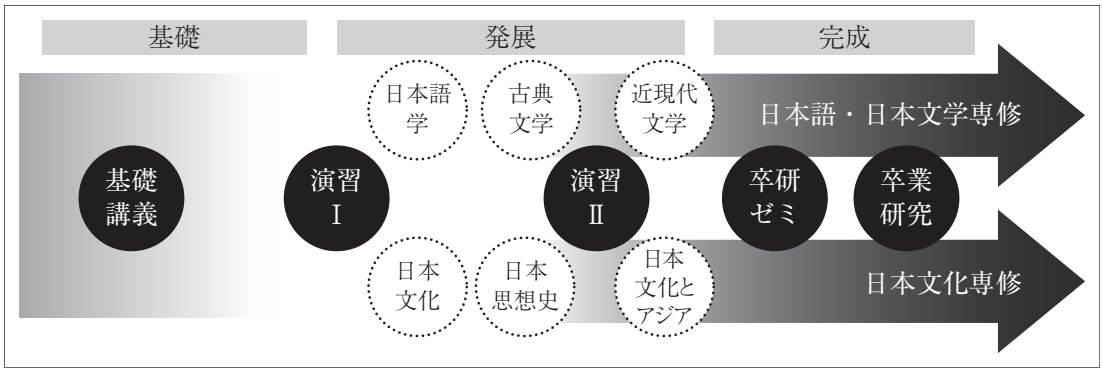
4．日本語・日本文学科専門科目

【表１】日本語・日本文学科カリキュラム

	科目区分		１年次	２年次	３年次	４年次	備考
共通	基礎講義Ⅰ	日本語学	選択必修	選択必修			４分野各２単位（計８単位）選択必修。 ３年次進級要件に含まれる。
		古典文学					
		近現代文学					
		日本文化（漢文学を含む）					
	基礎講義Ⅱ		選択	選択			
	特殊講義			選択	選択	選択	
	演習Ⅰ			選択必修			２年次に２コマを履修すること。 専任教員全員で担当。
日本語・日本文学専修	日本語学研究			選択	選択	選択	
	古典文学研究			選択	選択	選択	
	近現代文学研究			選択	選択	選択	
	演習Ⅱ				選択必修	選択	
日本文化専修	日本思想史			選択	選択	選択	
	日本文化論			選択	選択	選択	
	日本文化とアジア			選択	選択	選択	
	日本文化と女性			選択	選択	選択	
	書道		書道Ⅰ	書道Ⅰ・Ⅱ	書道Ⅱ・Ⅲ	書道Ⅲ・Ⅳ	
			書道史	書道史 書論・鑑賞	書論・鑑賞		
	演習Ⅱ				選択必修	選択	
共通（卒業研究関連科目）	卒業研究ゼミⅠ				選択		一学年１コマ。 専任教員全員で担当。
	卒業研究ゼミⅡ					必修	一学年１コマ。 専任教員全員で担当。
	卒業研究					必修	
学科共通プログラム科目					選択		いずれか一つ以上のプログラムを履修すること。

【図１】　日本語・日本文学科カリキュラムの理念



日本語・日本文学科では、ディプロマポリシー（学位授与の方針）として、１「情報を収集し、読解・分析する力」、２「論理的かつ柔軟な思考力」、３「広く他に自己の見解を説得力をもって主張する力」、４「日本語と日本文学に関する専門性、日本文化に関する専門性」を掲げています。つまり、卒業の段階でこれらの力や素養を十分に身に付けてもらうことができるように、学科のカリキュラムを組み立てています。

■カリキュラムの柱 ── ディプロマポリシーの各能力を磨く科目群 ──

ディプロマポリシー各項目に関わる力を育てる基本的なプロセスは、表１の網掛けの科目群、および図１の黒丸で記した科目の流れに示されています。

この科目群には「基礎講義科目Ⅰ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒研ゼミ」「卒業研究」の５種類の科目が含まれます。「基礎講義科目Ⅰ」は、本学科における各研究領域、ジャンルのいわば入門編に当たるもので、《基礎》となる知識や方法論を学ぶ場となります。「演習Ⅰ」は、やや専門的で具体的な課題に取り組みながら、「基礎講義科目Ⅰ」で学んだ基礎を発展させて「研究」に生かしてゆくための訓練をする場となります。「演習Ⅱ」は、参加者が各自の課題を設定して自力で調査研究し、その成果を他の参加者に対して「発表」する場、つまり、問題意識や方法論の訓練と同時に構想力や表現力・コミュニケーション力の鍛錬を行う場ともなるはずです。研究内容も「演習Ⅰ」よりさらに高いレベルのものが求められてきます。「卒研ゼミ」は、各自が「卒業研究」に直結するテーマを、これまでに培った知識と方法論とを傾けて可能な限り掘り下げてゆきながら、同時にそれを他の人々に対して十分な説得力を持つ形に（要するに「論文」のスタイルに）まとめ上げるための、より高度な「技術」を研鑽する場になるでしょう。こうして「卒研ゼミ」をクリアした暁には（理想的にゆけば）、「卒業研究」がほぼ完成しているということになるわけです。

■基礎段階 ── 大学での学修の基盤づくり ──

藤女子大学では、主に１年生を対象に「教養科目」を設け、ここで大学生としての基礎となる力や、社会に出て自己を実現してゆくための基盤となる素養を身につけてもらうことを目指していますが、本学科では、こうした学科の枠組みにとらわれない幅広い「教養科目」と、学科の学びの基礎を身につける「基礎講義科目」とを、大学における学修の基盤形成の場として位置付けています。

「基礎講義科目Ⅰ」は、このような基盤形成の意味を持つと同時に、「卒業研究」に結びつく関心領域を見つけてゆくという目的も持っています。自分自身の関心領域については、できれば１・２年次のうちにおおよそのところを絞り込んでおくのが望ましいでしょう。１・２年次中に「基礎講義科目Ⅰ」４分野各２単位（計８単位）を、２年次に「演習Ⅰ」４単位をそれぞれ必修として課しているのは、その絞り込みの目安にしてほしいという意図からです。

１・２年次に４分野（日本語学・古典文学・近現代文学・日本文化）の「基礎講義科目Ⅰ」を選択履修することは、自分の可能性と興味関心の対象を見極めるチャンスになるはずです。（早い学年のうちになるべく多くの領域にわたる講義に触れておくことが、その後の方向選択を容易かつ余裕あるものにしてくれるでしょう。）そして２年次にはひとまず「演習Ⅰ」を二つ選んで、自分のその関心が本物なのかどうか、今後その研究領域で研究を進めて行けるのかどうかを確認してみてほしいのです。（もしここで自分の選択が誤っていたことに気づいたとしても、その後の研究の方向修正は、卒業までの２年間で十分可能なはずです。もちろんなるべくはそのようなことにならないよう、慎重に慎重を重ねてベストの選択をしてほしいと思います。）

■発展段階 ── 専門性を深める専修科目 ──

日本語・日本文学科では、専門性を効果的に深めるための道筋として「日本語・日本文学」と「日本文化」の２専修を設けており、２年次から、自分がどの分野・領域で研究を進めてゆくか、希望する専修を絞り込んで行くことになります。

２年次の「演習Ⅰ」は専修ごとに分かれてはいませんが、科目名称に専修との関連性が示されているので、自分が進む専修をある程度意識して選択するようにしてください。

専修は、最終的には３年次末の「卒業研究」仮題目届提出時に確定することになりますが、あらかじめ３年次の初めに、いずれかの専修を選択します（それに従って「演習Ⅱ」「卒業研究ゼミⅠ」を選択し履修することになります）。

専修科目は、講義科目（日本文化専修は「書道科目」を含む）と「演習Ⅱ」からなり、講義科目は、担当教員による研究成果を含むそれぞれの分野の先端知識が、いわゆる「講義」形式で提供される形の授業が中心になります。この専修科目を通じて、自分が選択する分野・領域に関する知識や問題意識、方法論などを学び取ることにより、より高度な専門性が身につけられるでしょう。

また文学部では、他学科で開講される様々な科目も、学科の垣根をこえて選択履修できる体制を整えました（一部、条件を満たさないと履修できない科目等もあります）。これは「教養科目」とは異なり、各学科が学科としての専門教育を目的として開く講義ですから、それぞれの分野を専門とする担当教員による最先端の知見と独自の方法論を傾けた講義内容を吸収することができます。こうしたバラエティ豊かな他学科開講科目を通じて他分野の専門性にもふれ、広い視野や様々な問題意識を身につけてください。

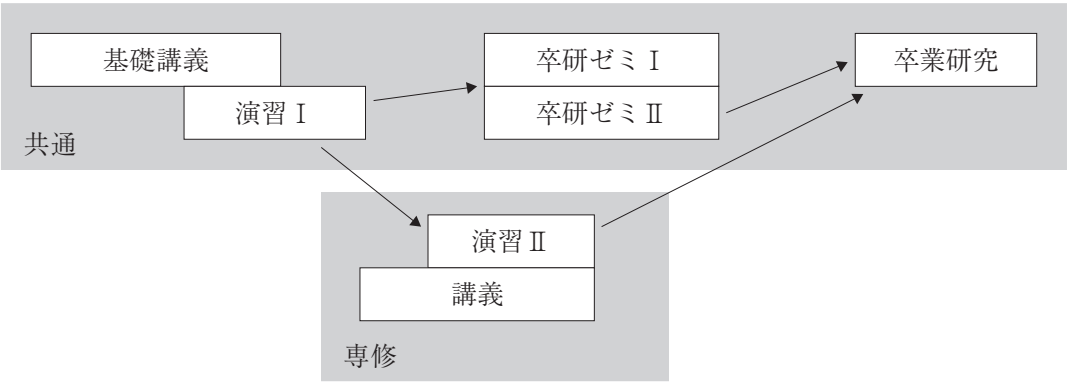
■完成段階 ── 卒業研究関連科目 ──

「卒研ゼミ」は３年次から受講できますが（３年次は「卒研ゼミⅠ」）、この「卒研ゼミ」を受講するためには（「卒研ゼミⅠ」「卒研ゼミⅡ」いずれの場合にも）、「演習Ⅰ」１科目（４単位）をあらかじ

め単位取得しておかなくてはなりません。３年次終了時にいずれかの「演習Ⅰ」を修得していない場合には、４年次必修の「卒研ゼミⅡ」が受講できないことになります。つまりその段階で留年が確定してしまうことになるので(図２参照)、この点は充分に注意してください。この条件を満たした上で、４年次には、いずれかの「卒研ゼミⅡ」を選択し、「卒業研究」をまとめることになります。

「卒業研究」は専修での学びを通じた専門教育の成果という性格をもつものではありますが、本学科では、これをあえて専修科目に含めず、「共通」の枠組みに入れています。これは、高度な専門性を極める中で、広く応用できる汎用的能力を育てるという学科の考え方に基づくものです。一つの専門分野を追求する経験を通じて、職業の場など、生涯の中で出会う様々な専門分野の知識や技能への「アプローチの仕方」、情報社会においてみずから問題を発見し解決してゆくための汎用的能力を鍛え、しっかりと自分のものにしてもらいたいと考えています。

【図２】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念



■キャリアを見据えた支援 ── 学科共通プログラム科目 ──

本学科では、専門性を高めたカリキュラムのほかに、将来を見据えたキャリア形成を支援するプログラム―「教員養成プログラム」「資格支援プログラム」「専門研究支援プログラム」「キャリア・リテラシー支援プログラム」―を開設しています。

これは、一般企業への就職を希望する人のみならず、資格取得を目指す人や、大学院進学などを目指す人のために、学科の専門性を活かしながら、進路に応じた力や知識、スキルが身につけられるよう、学科の専任教員が担当して展開する科目群です。卒業要件とはなっていませんが、３年次にこの科目群の中から少なくとも一つのプログラムを選択履修することが義務づけられています。これは、皆さんにキャリア形成への意識を持って学修を進めてもらいたいという狙いがあるためです。

具体的な科目としては、「国語教材研究」「国語科教員採用試験研究」「実用書道」（教員免許志望者向き)、「文献資料論」「論文読解」（図書館司書志望者向き)、「アジアと日本」「実践日本語表現」（日本語教員志望者向き)、「コミュニケーションとプレゼンテーションａ・ｂ」（キャリア・リテラシー支援）が用意されています。

■卒業単位構成

以上の説明をもとに一人ひとりが独自のカリキュラムを設計してください。それに従って取得した単位数が、最終的に下の表に示した卒業要件を満たすようになっていればよいのです。

学科専門科目	基礎講義科目Ⅰ	日本語学	2単位以上	計8単位以上
		古典文学	2単位以上	
		近現代文学	2単位以上	
		日本文化（漢文学を含む）	2単位以上	
	演習Ⅰ		4単位以上	
	演習Ⅱ		4単位以上	
	卒業研究ゼミⅡ		4単位	
	卒業研究		4単位	
	選択した専修から		12単位以上	
	選択しない専修から		4単位以上	
	そのほか		8単位以上	
大学共通科目	教養科目	キリスト教概論	2単位	計22単位以上
		女性とキャリアⅠ	1単位	
		各区分から	各2単位以上 計8単位以上	
		そのほか	11単位以上	
	外国語科目		8単位以上	
自由選択			46単位以上	
合計			124単位以上	

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。
※区分「学科共通プログラム科目」は6単位まで自由選択単位として算入できる。
※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。
※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。